

『保存科学』第61号の出版 (ホ07)



『保存科学』は文化財の保存と修復に関する科学的調査、研究報告などを報文・報告・資料のカテゴリーで掲載した学術誌であり、1964(昭和39)年に第1号を創刊している。令和3年度は、建石徹編集委員長、友田正彦委員、間淵創委員(文化財活用センター)、貴田啓子委員(東京藝術大学)の4名からなる編集委員会を編成し、投稿された論文に対して査読を行い、報文1報、報告5報、資料3報の計9報の掲載を決定した第61号を刊行した。2022年3月刊行、115ページ。

広報委員会

『東京文化財研究所概要』、『TOBUNKENNEWS』

『東京文化財研究所概要』、『TOBUNKENNEWS』はそれぞれ、各部・センターからの部会員で構成される東京文化財研究所広報委員会の概要部会、ニュース部会が作成し、編集事務はいずれも研究支援推進部企画渉外係が担当している。



『東京文化財研究所概要』は研究所の組織や活動内容を、写真を多用して日英2ヶ国語により簡潔に紹介している。令和3年度の概要はA4判38ページ。

『TOBUNKENNEWS』はウェブサイト公開した毎月の「活動報告」から、紙媒体に適した記事を精選し、文化財保存に関するコラム、刊行物紹介等とともに掲載している。A4判。令和3年度はNo.74(7月刊、60ページ)、No.75(10月刊、30ページ)、No.76(12月刊、26ページ)、No.77(3月刊、38ページ)を刊行した。

